

投資家の皆様へ

三井住友アセットマネジメント株式会社

## 11/8のアジア中国株式市場の下落について

平素は弊社をお引立て賜り厚く御礼申し上げます。さて、昨日(11/8)、中国株式を中心にアジア市場全般で調整が見られましたので、その状況及び弊社の見解についてご報告申し上げます。

### 中国株を中心に幅広く下落したアジア市場

昨日のアジア株式市場は、中国株式を中心に幅広く下落し、ハンセン指数は 3.19%、ハンセンH株指数は 4.50%、ハンセンレッドチップ指数は 3.89%、上海・シンセン300指数(上海・シンセン取引所に上場しているA株)は 4.80%、加権指数(台湾) 3.90%、韓国総合株価指数 3.11%、フィリピン総合指数 2.54%、インドSENSEX 1.20%、タイSET指数 0.75%等と調整しました(シンガポール、マレーシアは休場)。

この日の株価下落は、前日の米国株式市場の大幅下落を受けたものです。米国市場の下落はサブプライム住宅ローン問題の悪化懸念が主因と考えられますが、アジア市場でも投資家の間で米国の景気減速を懸念する動きが徐々に現れていると見られます。

### 今後の見通し

私どもの予想では、米国では住宅市場の不振が続くものの、企業部門の実態は健全であることを背景に、雇用と所得が今後も伸びると考えられること、FRBも状況に応じ、金融緩和継続に含みを残していることから、米国経済は概ね堅調な拡大を続ける事ができると考えています。

また、アジア諸国の経済ファンダメンタルズについても、輸出の伸びに多少かげりが見えたとしても、消費やインフラ投資などを中心とした内需が力強く成長すると見られることから、引き続き健全なペースでの成長が続くと見えています。

堅調な経済成長を背景に、企業収益は堅調な伸びが続くと見ているほか、株式市場のバリュエーションも過度に割高な水準ではありません。また、各国の対外収支や外貨準備も概ね健全な状態で、以前のような経済、通貨危機発生の可能性は低いと考えています。

以上のようにアジア地域の株式市場を取り巻く環境は大きく懸念する状況には無いと考えております。米国経済に対する懸念が短期間で消え去ることは考えにくい状況であり、アジア市場も多少の影響を受けることが予想されますが、中長期的にはしっかりした相場展開に戻ることを見込んでおります。

以上

この資料は、情報提供に限定したものとして、三井住友アセットマネジメントが作成したものであり、特定の投資信託・生命保険・株式・債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。この資料に基づいてとられた投資行動等の結果については、三井住友アセットマネジメントは一切責任を負いません。この資料の内容は発行日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。この資料は、三井住友アセットマネジメントが信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。この資料におけるデータ・分析等は過去の一定期間の実績に基づくものであり、将来の投資成果及び市場環境の変動等を保証もしくは予想するものではありません。この資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者許諾者に帰属します。